

筆者が住んでいる鳥取県西部では、10月19日に新型コロナウイルス陽性者1名が発表されてから大晦日まで新規陽性者ゼロが続いていた。勤務している病院では、入院患者との面会も解禁となり、地域経済活性化のために医局単位の忘年会なら許可された。このまま、コロナ前の状況へと正常化が進んでいくように思えた。しかし、正月休暇明けの1月4日に2カ月半ぶりの陽性者が発表されてから、毎日多くの新規陽性者が報道されている。年末年始の大移動に起因するのかな、もちろんオミクロン株である。「1年の計は元旦にあり」というが、たった4日で計は崩れ去ってしまった。

この新型コロナウイルスは、100年前に発生したスペイン風邪にたとえられることが多い。1918年に最初の感染者が報告されて、1920年頃に終息している。ウイルスの知識もなく、当然ワクチンも治療薬もなかった当時でも3年弱で終息していることから、現代に発生した新型コロナウイルスは1~2年くらいで落ち着くのではという期待も、脆くも崩れそうである。コロナ前は学会や講演で全国や海外を飛び回り、落ち着けない生活に文句も言っていたのだが、病院や自宅にいわば監禁状態になると息が詰まるようで、コロナ前の生活がバラ色に見えてくるのも身勝手なものだと深く自省している。

さて、今月号の特集は「手術部位感染（SSI）アップデート」である。根尾昌志編集委員が選んだ執筆者はいずれもこの分野に造詣が深く、ガイドライン、リスクファクター、予防から治療に至るまで新しい知見が幅広く網羅されている。まさにSSIのバイブルのような構成になっている。高齢者や易感染性宿主に対する手術も日常茶飯事となり、数多くの手術を行えば、残念ながら意図せずSSIも経験することにもなる。日頃SSIに気を遣っている読者には、ぜひ手元において機会があるたびに再確認してもらいたい。

2020年初頭以降、新型コロナウイルスに対する水際対策および国内対策が毎日のように言われてきた。SSIも同じである。SSIといういわば“パンデミック”となれば、医療従事者の業務も医療コストも患者の疲弊も膨大なものになる。したがって予防策が肝要で、手術中は細菌が侵入しないようにし、侵入したとしても抗菌薬で退治できる範囲内の量にとどめる“水際対策”、術後は適切な抗菌薬の投与・栄養改善や血糖コントロールなどの“国内対策”が必要となる。新型コロナウイルスのパンデミックとSSIは、気を緩めると経験することも類似している。われわれ医療従事者と感染症との戦いはいつになっても終わらない。

(永島英樹)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 高橋 昭 金田清志
小山素磨 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

山崎正志（編集委員長）
金 彪（副編集委員長）
亀山 隆 園生雅弘 高橋敏行
谷 論 筑田博隆 永島英樹
中村雅也 根尾昌志 原 政人
飛驒一利 堀 正明 松山幸弘

Vol. 34 No. 7

(2022年1月31日発行)

毎月1回25日発行

1部定価（本体2,500円＋税）

（配送料別）

年ぎめ予約購読料33,300円＋税

送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>
（担当：山岸）

印刷所／三報社印刷株式会社
TEL 03-3637-0005

広告申込所／

（株）文栄社

TEL 03-3814-8541

（株）ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2022,
Printed in Japan

JCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。